
遊戯王RD番外編～GX旅行記～

風紀光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王RD番外編〜GX旅行記〜

【Nコード】

N3398W

【作者名】

風紀光

【あらすじ】

「ごめんWなんか別の次元に飛ばしちゃったW」

とある出来事で普代グミと風紀光は異世界に飛ばされてしまう。

そこで出会った神様（自称）が元の世界へ戻る扉を作る間、普代達は別の世界で生活することに。

そして飛ばされた先はなんと、あのGXの世界だった。

さあ・・・どうする？

米番外編と書いておきながら記念すべき一作目という事態になったのは秘密。

エピローグ（前書き）

はじめまして！

文才はないですがよろしくお願いします。

まったりスロー更新です。

エピソード

「・・・」

はーいみなさんこんにちはー

俺は現在命の危機に晒されています。助けてください。

「・・・」

わあ睨まないで・・・俺のせいじゃないんだから。

怒るならあの神様（自称）にしてくれ。

俺の名前は風紀光。

しがないデュエリストさ！

・・・だが俺はなぜかいつつーも負けちまうぜ・・・
くっ・・・なぜだ・・・

特にこいつ・・・普代グミには勝ったことがねえ！

いやギリギリまでライフは削るんだ・・・

しかしいつも逆転負けされちまう・・・

俗に言うディステニードローというやつだ・・・

主人公補正なヤツはいいよなあ・・・俺だってそんなチートドロー
ほしいやい・・・

「なんじゃ？お主チートドロー力がほしいのか？ほっほっほっ！遠慮しなくてもいいのだぞ」

ああそうですか！じゃあくださ・・・って・・・

「どおりやあああああああ！」

[illegible]

「そ、そ、それは・・・」

「ひ
い
い
い
い
い
い
！」

めっちゃめっちゃ怒ってるよ普代。オーラが般若の顔つくってるもん。

「む・・・むしやくしやしてやりました・・・」

いややめてください。さすがにそれはいたいです。

⋮

「ありがとう神様！」

「いいからさっさと元の世界にもどせええええ！！！」

な・・・

「なん・・・だと・・・？」

「なんかー最近この次元の扉調子悪かったみたいでさー・・・壊れちゃった☆」

「壊れちゃった☆じゃない！それで修理には何ヶ月かかるんだ！？」

「んー神様暦で・・・1年かな☆」

「な・・・それまで帰れないということか！？」

「うん！」

・・・

「ふ・・・風紀iiiiiiii！！」バキィ！

「げふおおお！」

「取り返しのつかないことをしたな・・・風紀iiii・・・」

さすがの私もこれには絶えきれない。

元の世界に戻ったときにまた面倒な事が起きる。

行方不明扱いになって留年になるのだけは勘弁してほしい。

「はっはっはっ☆安心しなさい！こう見えても私はここでは最高神！時間くらい止めといてやろう！」

「ほー！すごいな神様！やったね普代！留年ならずにすむよ！」

本当にそうならばいいのだが信じられない。

なぜならこの神様（自称）の後ろに、お花畑が見える。

・・・オーラの意味で。

「しかしそのあいだ私達はどこで暮らせばいいのか・・・」
「安心するがいい！しばらく帰れない詫びにある世界にとばしてやろう！」

・ツツコミどころが多すぎてなんと言うべきか・・・

「・・・あのな・・・また帰れなくなったらどうするんだよ・・・」
「大丈夫！神様だから！」

「・・・きちんとした生活はできるのか？」

「そのへんも任せろ☆」

「・・・はぁ・・・で、どこの世界にいくんだ・・・？」

「行っからのお楽しみ☆」

「・・・」

・・・なんかこいつと話すと疲れるのは気のせいだろうか・・・？

「・・・もうわかった・・・さっさとその世界にとばせ・・・」

「おっけー☆あの扉からくぐってっちょ！」

そう神様（自称）が指差すところを見ると、光り輝く扉が現れた。

「すんげー！楽しみだな！普代！」

「・・・元はと言えばお前のry」

「じゃあレッツゴー！」

「私の話をきけえええええ？！」

また先程と同じく、風紀が突っ走り、私は半無理やり扉の中に入った。」

「いてらー！」

そう叫ぶ神様（自称）の声を聞きながら・・・

第一話　　異世界旅行開始！

~~~~~

普代が目を覚ますと、そこはとあるホテルの一室にいた。

（普代 side）

・・・あれ・・・ここはどこだ？

確か風紀に無理やり連れられて扉の中に入って・・・

・・・それっきり記憶はない。

トリップ現象によくある手といったところか・・・まさか自分がないとは思わなかったが。

改めて部屋を見渡す。

机の上に手紙のようなものがあり

ソファーには山積みになったジュラルミンケース。

そして床には二つのトランクがあった。

とりあえず手紙を読むことにする。

【やあ！神様だよ！楽しんできてね！プレゼントもおいといたよ！  
一週間後が試験だからがんばってね☆】

そして手紙の中から出てきたのはデュエルアカデミアの受験票だった。

・・・この神様は私にまた学校に行けというのか・・・

「た、た、た、た、大変だ普代！」

そこにうっとおしいヤツが来た。

とりあえず入る時はノックだノック。勝手に女の部屋に入るな。

しかしそんな怒りも次の風紀の一言で吹き飛んだ。

「こ・・・ここ・・・アニメの世界だよ・・・」

・・・なんだって？ どういうことだ？

「ここの住所童見野町だよ・・・しかも今・・・十代達がちょうどデュエルアカデミアに入学する年・・・」

――――  
――――  
――――

「・・・つまり私達はその遊戯王GXの世界にいるということか・・・」

「アニメあまり見ない普代にはわからないかもだけど・・・」

「いや、私はカードと戦略参考のために見てるよ。しかしプレゼン  
トが大量のカードとは・・・」

「さすが神様！ しかもデッキケースつきで全種類9枚！」

「・・・しかし地縛神や三幻神・・・シンクロエクシーズまで・・・」

」

「デッキとカードには困らなそうっすね！」

「……とりあえずシンクロエクシーズは極力使わないようにしよう。」

「俺はともかく普代はだい……じょうぶだな……」

「こんだけカードあればな。いろいろデッキが作れそうだ。」

私のメインデッキはシンクロ中心のデッキを使っている。  
だがさすがに贅沢はいってられない。

「さあ普代！カード買いに行こうぜ！」

「……こんなにあるのにいらないだろ……」

「いや！GXのパックチェックと探検だ！レッツゴー！」

やれやれ……

禁止制限リストも確認しておかなければな……

## 第一話 異世界旅行開始！（後書き）

次回やつと入学試験です！

やつとデュエルだデュエル・・・

## 第二話く入学試験その1. これが次期禁止の力だ（前書き）

こんばんは。

タイトルでネタバレしてますね・・・

皆のトラウマ登場！  
ではどうぞ。

## 第二話く入学試験その1. これが次期禁止の力だ

く 一週間後 く

side 風紀

ふう・・・今日は実技試験か・・・

え？なんでこんなに疲れてるかって？

そりゃー昨日筆記試験があったからだよ！

まあ正直かなり簡単だったから、満点近いと思うけどな！

こうみえて一押しデュエルの勉強はしてるからな！

筆記試験は基礎半分応用半分という構成だったらしいが、

基礎はカードの種類の説明などで、応用は禁止カードの効果の説明だった。

ちなみにGXの禁止制限はだいぶ緩く、今悪用されているカードが今無制限・・・なんてこともあった。

恐ろしい時代だ。まあレア度が高いというのものもあるが。

おっとそろそろだな！

普代の実技試験番号は3。俺は17だ。

普代いわく「満点とれてあたりまえ」らしい。さすが！

・・・そうそうトラベルしたあの後、普代と俺は神様からプレゼントされたカードと買い物に行ったときにたくさん買ったパックで手に入れたカードを使い、新しいデッキを何個か作った。



俺はともかく、普代はシンクロ中心だからな。  
効果もエグいし絶対に変えないとまずい。

ちなみに俺はいつも使ってるデッキだからな！わはははry

『受験番号3、普代グミ。フィールドにあがってください。』

お、よばれたな。

さて・・・実技で普代が使うデッキは・・・まあみてればわかる。

「よろしくお願いします。」

「私が試験官だ。君の実力を見極めよう！全力でかかってきなさい  
！」

「わかりました。では先行はもらいます。」

「「デュエル！！！！」」

さりげなく先行もらいやがった・・・

もう普代の勝ちだな。

「私のターン。ドロー。魔導サイエンティストを守備表示で召喚。」

「魔導サイエンティスト」 DEF300

「守備力300？ふん！事故ったな。」

「かわいそうに・・・くすくす・・・」

あー・・・こいつの強力な効果しないのか・・・？

馬鹿だなこいつら。さすがブルーさん（笑）

「さらに手札から名推理を発動。このカードが発動された時、相手

プレイヤーはモンスターのレベルを宣言します。通常召喚が可能なモンスターが出るまで自分のデッキからカードをめくります。

出たモンスターが宣言されたレベルと同じ場合、めくったカードを全て墓地へおくりまします。違ったとき、そのモンスターを特殊召喚し、残りのカードは墓地にいきます。さあ、宣言してください。」

「馬鹿かあいつ？自分からカードを墓地に送るとはな！」  
はは・・・オワタ・・・お疲れ様です。

「そうだな・・・レベル4だ。」

「わかりました。ではめくります・・・通常召喚可能なレベル5のカタパルトタイトルができました。宣言と違うので特殊召喚し、のこのカードは墓地にいきます。」

「ふん。そんなカードならべたところで、なにが・・・」

「魔導サイエンティストの効果発動。1000ポイント払い、デッキから融合モンスターを特殊召喚！3000ポイント払って紅陽鳥三体特殊召喚！」

「紅陽鳥」 ATK2300

「攻撃力2300!？」

「さらにカタパルトタイトルの効果！自分のフィールド上に存在するモンスター1体を生け贄に捧げ、そのモンスターの攻撃力の半分をダメージとして相手に与えます。私の勝ちです。1150×3+500+150で4100のダメージをくらいなさい！」

「なにiiiiiiii!？」

「射出！カタパルトキャノン！グオレンダア！」

哀れ。場にカードを出すことすらできず、試験官はカタパルトタイトルが射出した赤い弾丸をくらった。

あれ・・・なんか普代キャラ崩壊してるようなry・・・

「ありがとうございます。」

礼儀正しく頭を下げると、普代は静かにフィールドからおりた。

## 第二話く入学試験その1. これが次期禁止の力だ（後書き）

サイエンカタパはイリアステルのあの人ご愛用です。

とりあえず魔導サイエンティストはもうもどってこなくていいですね。

### 第三話くデッキお披露目・・・あれ？（前書き）

お気に入り登録ありがとうございます！

見てくれている方がいるとやはり嬉しいです！

さて第三話は風紀君のデュエルです。

ようやく原作キャラと絡める・・・

### 第三話くデッキお披露目・・・あれ？

風紀のデュエルが終わってからまだしばらく会場はざわついていた。

それもそのはず、相手のターンすら与えずデュエルを終わらせたのだ。

そんな事例など滅多に見たことがない。

「相手のターンを与えず勝利か・・・」

「そうね・・・でもまさかあんな戦術があるなんて・・・まだまだ勉強不足だったわ・・・」

「ふ・・・中々面白そうだ。」

「あら、あなたがそんなこと言うなんて。」

「な、なんなんだあいつは！相手のターンの前に倒すなんて・・・」

「万城目さん！！どうせ運がよかっただけですよ！」

「あ、ああそうだな。まずあんなコンボそうそう決まらないはずだ！」

—————

side 風紀

ふん！言ってる！

普代は確かに運はいいヤツだ！

しかし普代はしっかりと戦術を考えて、一つ一つのカードを無駄にしない使い方をする！

そして何より・・・まあ戦えばわかるさ！

「やあ、君が普代グミさんか？」

お・・・その声は

「三沢大地か。受験番号1。堅実なデュエルで難なく勝利。さすがだな。」

「いや君も凄かったよ。まさかワンターンキルしてしまうなんてな。」

「いえあれは運がよかっただけですよ。」

「ところで先程のデュエルだが・・・」

「典型的なパワーデッキでしたね。しかし・・・」

なんと・・・会っていきなり普代と馴染めるとは・・・

さすがくう・・・三沢大地・・・

まあ普代はデュエルの話題になると熱くなりやすいからかもしれない！

『受験番号17、風紀光。フィールドにあがってください。』

お、俺の番だ！よっしゃ！

さっそく俺のデッキの力をみせてやるぜ！

「よろしくお願いします！先行はもらったぜ！ドロー！」

よし！先行はもら・・・うええ！？

デッキが変わってるー！？

|||||  
|||||  
|||||  
|||||  
|||||

普代side

やれやれ・・・あいつはプレイングだけは悪いから・・・  
誰でも勝てるデッキにもらった。

まあ元のデッキでも余裕で勝てると思うが、念のためだ。

それに・・・いきなりメインデッキをバラされてもこまる。

「お・・・俺は手札から未来融合発動！デッキからドラゴン族モンスター5

体を墓地におくり！FGDを攻撃表示で特殊召喚する！」

「な・・・なんだと・・・！？」

「FGD・・・攻撃力5000・・・

それをいきなりだしてくるとは・・・」

「未来融合が無制限だから出すのは簡単だと思います。」

それにこの時はまだアニメ効果だしね・・・

「俺はカードを三枚伏せてターンエンド！」

「では俺のターン・・・」

「はありませんよ！罠発動！破壊輪！効果は・・・わかりますよね？」

「な・・・！？FGDを破壊するだと・・・！？」

「さらに即効魔法！防御輪！・・・ありがとうございました。」

「ぐああああ！！！！！」

そう・・・確かにFGDだけでこのデュエルは勝てる。

しかし相手にはおそらく伏せカード・・・ミラーフォースなど、攻撃反応型罠を次のターンで伏せてくるだろう。

風紀は引きは比較的強い方だ。

だから確実に相手のみを一撃で仕留めるように破壊輪と防御輪をいれた。

やはりこの目論見は間違っていなかったようだな。

「破壊輪・・・相変わらず強い効果だな・・・」

「どうりで制限カードなわけだ・・・」



まあ仮に二枚のカードをひけなくても、墓地にはレッドアイズダークネスメタルドラゴンとレッドアイズワイバーンがいるから問題はなかったがな。

「普代！！！！！！」

「なに？？」

戻ってきた風紀がデカイ声で話しかけてきたので睨みつけておいた。これで文句は言わないだろう。

「ナンデモアリマセン」

「じゃあ話しかけるな。」

「スミマセン」

「やあ風紀光君。君も凄かったよ。」

「あれ？・・・三沢君いたの？」

「ずっといた！」

やはりここでも空気が三沢大地。強いのに残念だ。

「すいませーん！遅れましたー！受験番号110遊戯十代！セーフだよな？」

おっ。ようやく主人公のお出ましか。

「いけ！フレイムウイングマン！古代の機械巨人に攻撃！」

「マンマミーア！！！！」

そして原作通りクロノス教諭をやぶった。

さすが主人公だ。あの引きはなかなかチートである。

しかし今日は疲れた。さっさと帰って寝よう。

「やっぱすげえな！帰ったらまたデュエルしようぜ普代！」

「嫌だ。帰ったら寝る。」

「ええー・・・」

「では三沢大地。デュエルアカデミアで会おう。」

「ああ。よろしく頼むよ。」

「じゃあねー！三沢ー！」

にしてもまさか最初に三沢と会えるとはな・・・

「俺たちついてますねry」

「うるさい。」

### 第三話くデッキお披露目・・・あれ？（後書き）

ぐっだぐだで申し訳ないです・・・

結局ワンターンキルじゃないか！

禁止カード怖いよ禁止カード。

次回はいいよ入学です！

## 番外編く入学当時の禁止制限く(前書き)

こんばんは。

番外編・・・というか禁止制限カードの説明です！

というか・・・2004年3月のをコピペしただけという。  
段々禁止制限も変わる予定です。

## 番外編く入学当時の禁止制限く

### 禁止カード

《お注射天使リリー》  
《サイバーポッド》  
《ファイバーポッド》  
《八汰烏》  
《いたずら好きな双子悪魔》  
《心変わり》  
《サンダー・ボルト》  
《ハーピィの羽根帚》  
《王宮の勅命》

→

### 制限カード 十

《苦渋の選択》  
《ヴァンパイア・ロード》  
《混沌帝龍 一終焉の使者一》  
《カオス・ソルジャー 一開闢の使者一》  
《キラー・スネーク》  
《クリッター》  
《黒き森のウィッチ》  
《混沌の黒魔術師》  
《人造人間一サイコ・ショッカー》  
《同族感染ウイルス》  
《ドル・ドラ》  
《封印されしエクゾディア》  
《封印されし者の右足》  
《封印されし者の右腕》

《封印されし者の左足》  
《封印されし者の左腕》  
《ならず者傭兵部隊》  
《魔鏡導士リフレクト・バウンダー》  
《魔導サイエンティスト》  
《魔導戦士 ブレイカー》  
《悪夢の蜃気楼》  
《大嵐》  
《押収》  
《強引な番兵》  
《強奪》  
《強欲な壺》  
《死者蘇生》  
《団結の力》  
《蝶の短剣―エルマ》  
《手札抹殺》  
《天使の施し》  
《成金ゴブリン》  
《早すぎた埋葬》  
《光の護封剣》  
《ブラック・ホール》  
《魔導師の力》  
《現世と冥界の逆転》  
《聖なるバリアーミラーフォース―》  
《停戦協定》  
《破壊輪》  
《魔法の筒》  
《無謀な欲張り》  
《リビングデッドの呼び声》  
《時の女神のいたずら》

準制限カード

《暗黒のマンティコア》

《カオスポッド》

《処刑人ーマキュラ》

《切り込み隊長》

《メタモルポット》

《強制転移》

《増援》

《抹殺の使徒》

普代「これを最初見た時冗談かと思った。」

風紀「俺さ・・・たまになんでこいつ制限なの？ってわからない時があるカードがある。」

普代「じゃあ試してみるか？」

風紀「いや・・・勘弁してw」

## 番外編く入学当時の禁止制限く（後書き）

こっそり苦渋の選択を制限にしました。  
理由？使いたかったからで r y



## 設定的ななにか。(前書き)

お久しぶりです・・・

もういろいろ忙しくて更新が停滞しそうです・・・  
遅れてすみませんです・・・

さて今回は普代達が居た世界・・・いわば設定ですね。  
こちらの物語はオリジナルで執筆中なのですがなかなかカード名が  
思いつかずあばばしています。

## 設定的ななにか。

設定

デュエルアカデミア

DAタイト校・・・普代達が元いた学校。デュエリスト育成学校だが進学校としての評価の方が高く、大半はプロデュエリストではなく進学の道を選ぶ。

ちなみに学園は小く大学まであり、普代達が所属しているのは高校である。

タイト校RD部・・・正式にはライディングデュエル部。

タイト校はデュエルの授業がある以外は普通の学校なので、部活動も盛んに行われている。（校長いわく「この学校の生徒にはデュエルや学問に縛られるだけでなく、部活動を通じてさまざまな事を経験してほしい」）

・・・ライディングデュエル部は元はライディングデュエルを趣味で行っていた人々が集まって出来た部で、いわば趣味の領域だったため、大会成績もあまりよくなかった。

しかし、最近はどこかの誰かさん達のせいで、デュエルの大会では素晴らしい成績をおさめるようになってはきたが、中にはライディングライセンスすらとってない人もいる。

普代「ライディングデュエル部は人こそ少ないが皆先鋭ばかりだ。  
・・・一名を除いて。」

風紀「まったく・・・誰の事だろうな！」  
普代「・・・」

普代グミ・・・冷静沈着な主人公。

風紀いわく「歩く遊戯王wiki」で、デュエルの事ならなんでも知ってるらしい。

運命力MAXで引きたいカードが引けるとのうわさがある。

G Xの世界にきてからは、ことごとくキャラクターが崩れているらしい。

風紀光・・・お調子者で頭の中がお花畑。

運命力はあるものの。デュエルタクティクス

が非常に残念、頭も残念なため、RD部には勝ったことがない。

G Xの世界にきて「勝率あがった!」と喜んでいる。

**設定的ななにか。(後書き)**

入学式の話で詰まってるなんていえない r y

## 入学式〜普代グミの暴走〜（前書き）

今回デュエル無しです・・・  
ぶっちゃけるとスルーしてもいいはなしです。本当にすみません！

## 入学式〜普代グミの暴走〜

〜風紀side〜

「えー諸君は狭き門をくぐってやってきてくれました・・・未来のデュエルキングを目指して・・・」

やあ皆。風紀光だよ。

祝☆デュエルアカデミア入学したぜ！

ちなみに俺はオシリスレッド、普代はオベリスクブルーだ！

・・・なんで俺・・・オシリスレッドなんだろうか・・・

それにしても入学式が長い・・・

もうやめたいよパトラッシュ・・・

~~~~~

「ふう・・・入学式は相変わらず疲れるな〜」

「正座ミーティングよりはマシだろ。」

う・・・正座ミーティングは確かに地獄だ・・・

『ミーティングは部内での連携を高め、互いのデュエルタクティクスを向上させるためには必要だ。』という部長の提案で、こちらRD部は週1で、ミーティングを行っている。

それがただのミーティングならいいんだけどさ・・・なぜか和室で、しかも正座でやることになっている。

部長いわく『正座によって己の精神を律するのだ。』・・・らしい・

わけがわからないよ・・・だれか止めろよ!

「それにしてもなんで俺がオシリスレッドなんだ!? 筆記でもよかつたし、実技でもワンターンキルしただろ!?」

「どうもワンターンキルはリスペクトデュエルをモットーとする校長の意にはそぐわなかったみたいだな。それに戦術もないワンターンキルだったのも原因だろう。あーあと」

「わかったわかった! よくわかりました! 聞いた俺が馬鹿だったよ!」

ん?・・・なんか違和感があるような気がするがまあ、気のせいだよな!?

「しかしおかげでこの世界に介入しやすくなった。なかなか好都合だな。」

「お前・・・介入する気満々じゃねーか!! そこは止める立場だろお前!!!」

「あんたね・・・漫画やドラマの世界に来て介入しない馬鹿がいると思う!？」

「ノリノリだな!？」

「ノリノリだよ悪い!？」

「悪くないです! もっとやれ!」

「わかればいい!」

・・・普代・・・キャラ崩壊してるぞ・・・

まあとりあえず話題変えよう話題！

「ところでこれからどうするよ？寮に荷物運ばなきゃいけないし、いったん別れて・・・」

「私はもう済ませた。」

「早っ！！！！お前・・・何時の間に！？」

「お前がトイレにいつている間にパパッとね。セキュリティも完璧だ。さて、レッド寮に行こうか。」

「まてまてまて！！！！トイレ行ってた間と言っても10分も行っていないぞ！！？」

「その間に普代はあのブルー寮まで行ってカードを仕舞って帰ってきたというのか！？」

「おかしいだろ！？そして・・・」

「ついてくるのか！？」

「当たり前でしょう。さあ行くよ！バイク拝借して！」

「ああなるほどね。だからあの距離を短時間で・・・って

「いやダメだろいろいろ！？なんだ勝手に拝借って！？」

「Dホイルの免許あるし、バイクもちやんと口頭で借りるって言ったし問題ないです。」

「こっちでは無免許だろ！誰だよバイク貸したヤツ！疑えよ！？」

「さあ、つべこべ言わんで行こうか。」

「ちょ・・・ま・・・」

「アレ？普代って・・・こんなヤツだっけ・・・俺の知ってる普代と違うぞ・・・」

「それになんで俺がツツコミ役なんだよ・・・逆だよ逆！」

「もーしかたない・・・さっさと行こう・・・」

普代には逆らえないしなあ
・
・
・

入学式〜普代グミの暴走〜（後書き）

普代のキャラ絶賛崩壊中。

おかしいな〜・・・？全然冷静沈着じゃないぞ〜・・・

普段は風紀達のはっちゃけて、普代がツツコミ役です。一応。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3398w/>

遊戯王RD番外編～GX旅行記～

2011年11月16日02時22分発行